Om Hrim ritam ②

バークティール　 バガースチャ　 バジャナム　 バーヴァ　 ベーダ　 カーリーィ

Bhaktir bhagahscha bhajanam bhava-bheda-kari

神様に対する愛　６つの良い性質を持っている者　霊的な実践 　世俗的な世界　 切る 切る人（ラーマクリシュナ）

ガッチャーン ティヤラーム　 スヴィプラム　 ガマナーヤ　 タットヮム

Gachchhan tyalam suvipulam gamanaya tattvam;

連れていく　　　　　絶対　　　 　偉大な、大きい　　　　　最高の　　　　　　真理

ヴァーク トローッ　 ドゥリ トーピ　 フリ ダ イェー　 ナ　 メ　 バーティ　キーンチーッ

Vaktrod - dhritopi hridaye na me bhati kinchit

口で　　　　話す、引用する　　　　心　　　　　ない　 私の　表れていない　少しも

タスマーッ　 トヮメーヴァ　 シャラナム　 ママ　 ディーナ　バンドゥー！

Tasmat tvameva sharanam mama dina-bandho!

そして　　　あなた　～だけ　　　避難所です　　　　　私の　　　貧しい人　 友達

＜意味＞

おお、神様（シュリー・ラーマクリシュナ）！

あなたは神様に対する本当の愛と６つの良い性質すべてを持たれたお方。

そして私たちをこの世俗的な世界の束縛から断ち切り、

絶対の、最高の真理へと導いて下さる。

私は聖典を読んでも、まだ頭の知識だけで何も理解していません。

どうか私たちを助けてください。

あなただけが私の唯一の避難所。決して私を見捨てる事がない、貧しき私の友達！

＜賛歌集の訳＞

この世の束縛の破壊者

信仰と願いと礼拝は実に、人を至高の真理に導くに余りあるもの。

これらについて多く語るうちに、私は全く全てを忘れてしまう。

あなたは私の唯一の避難所、おお、卑しい、迷える者の友よ！

＜語句解説＞

Bhaktir：Bhaktih 神様に対する愛、尊敬

Bhagahscha：※1. Bhagah（6つの良い性質）+ cha（～もalso）

Bhajanam：※2.霊的な実践のこと。瞑想する、神の名を繰り返し唱える、礼拝する

Bhava：（世俗的な）世界

bheda：切る

kari：※3.（切る）人、ここではシュリー・ラーマクリシュナ

Gachcchan tyalam：Gachchan＋ti（連れて行く）＋alam（絶対に）

Suvipulam：su（とっても）＋vipulam（大きい）

gamanaya：最高の（語彙は「行く」）

tattvam：真理

Vaktrod：※3.口で

dhritop：dhoti（話して）＋opi（も）

hridaye：hridayam英語のheart 感じる心

na：ない

me：※4.　わたし

bhati：表われてない

kinchit：何も、少しも

Tasmat：そして

tvameva：あなただけ　＊ここからのフレーズは①フレーズで説明済み

sharanam：避難所

mama：わたしの

dina：低いレベルの人、弱い人

bandho：友達

**＜解説＞**

※1. Bhagah（6つの良い性質） + cha（～もalso）＝6つの良い性質を持っている者

Bhagaは６つの「良い性質」のこと。この場合の「良い」は「永遠の善」という意味

**Bhagah（6つの良い性質）とは**

1. **オイッシャーリヤ**：すべての善の富→お金、超能力などすべ）

2. **ビーリヤ**：すべての善の力→様々な（肉体、感覚、心、知性）の力すべて

3. **ヤシャ**：すべての永遠の名声

4. **スリ**：すべての永遠なる美

5. **ギャーナ**：知識

世俗的と霊的の２つの種類がある

①世俗的な知識（**アパラ・ギャーナ**）（=アパラ・ディッビャ） 普通の知識、学問。

②霊的な知識（**パラ・ギャーナ**）（=パラ・ディッビャ） 悟った人の知識。

6. **ヴァイラッギャ**：放棄、無執着

**これらの６つの良い性質(Bhagah)を持っている人が、バガヴァーン（bhagavan）です。**

「バガヴァッド・ギーター」では、シュリー・クリシュナがバガヴァーンです。

なぜならその「６つの良い性質」を持っていたからです。

アルジュナもユディシュティラも大変優れた人ですが、バガヴァーンではありません。

また、高いレベルの聖者はたくさんいますが、やはりバガヴァーンではありません。

なぜなら、その聖者たちも「６つの良い性質」すべてを持っていないからです。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダも七賢の一人でしたがバガヴァーンではありません。

スワーミー・ブラフマーナンダもバガヴァーンではありません。

しかし、シュリー・ラーマクリシュナは「６つの良い性質」すべてを持っているのでバガヴァーンなのです。

※2. Bhajanamはウパーサナ。霊的な実践のこと。

「瞑想する」「神の名前を繰り返し唱える」「礼拝をする」

参考：Bhajan（バジャン）は「神聖な歌」という意味で、Bhajanamは包括的な意味です。

それらを実践することで

①世俗的なものを取り除きます。

②最高の真理（シュリー・ラーマクリシュナ）に我々を向かわせます。

**◆シュリー・ラーマクリシュナを悟るために必要なこと**

Bhaktir＝**①尊敬、②放棄、③霊的な実践**

たくさんの知識を知っていても実践をしないと結果は出ません。

※3. Bhava bhedakari

私たちは、Bhava（世俗的な世界、世俗的な欲望や楽しみ、執着）の鎖で縛られています。

それは奴隷の状態です。

しかし、私たちの本性は「自由」ですから、もし自由が欲しければその鎖を切らなくてはなりません。

**◆どのような方法（武器）でその「世俗的な鎖」を切りますか？**

**①神様に対する愛（バクティ）**

**②知識（ギャーナ）**

**③放棄（バイラッギャ）**

**④実践（バジャン）**

◆**普通の信者の状態とはどんなでしょうか？**

※4.Vaktrod - dhritopi hridaye na me bhati kinchit

意味：**口では神様のことを沢山話したり聖典を引用したりしますが、心の底から本当の理解はなく、神様のことは何も表われていません。**

**ギャーニー（学者）**は聖典を勉強し沢山の引用をしますが、実践はしていないので

**タットワダルシ（悟った人）**とは全く違います。

その例をあげましょう。

例１）牛車の話（砂糖）

インドには馬車と同様に牛車があります。その牛車の中に、沢山の砂糖を積んでいるものがありますが、牛はそれを運ぶだけで食べてはいない、味わっていません。

学者はこの牛と同じです。頭の中には聖典や神様の知識を一杯持っていますが、実践をしていないため神様の味がわかりません。

例２）牛車の話（サンダルウッド）

砂糖と同じように、牛は時々サンダルウッドも運びます。サンダルウッドはとても香りがしますが、牛はそれを運んでも運ぶだけで匂いを嗅ぐことは出来ません。

例３）宗教のリーダーの話～「シュリー・ラーマクリシュナの福音」より

ある宗教のリーダーは沢山勉強をした学者で、信者への講話の時にこう言いました。

『神様は面白くない、甘くない。神様はドライです。自分の甘い感情、フィーリングと神様を合わせてください。自分の尊敬や愛で、神様を面白くしてください。』と。

しかし神様の本性は、Sat cit anandaで「至福」です。ドライではなく至福の源です。

その宗教のリーダーは悟っていないので、神様がどのくらい面白く、至福に満ちているのかわかりません。

例４）オウムの話～「シュリー・ラーマクリシュナの福音」より

鳥のオウムは真似が上手です。「クリシュナ」と教えると、繰り返し唱えますが、

クリシュナが何かはわからない、口で言うだけです。

例５）学者の話～「シュリー・ラーマクリシュナの福音」より

学者は沢山の聖典の話をしていますが、心は「金・名声欲」などの世俗的なことを考えています。また実践をしていないので、その知識は理解のない知識です。

例６）Mさんの話～「シュリー・ラーマクリシュナの福音」より

Mさんは、いつも、『わたしは神の知識を理解しています』と言っていました。

ある時Mさんにシュリー・ラーマクリシュナが言われました。『あなたは、頭では聖典の知識を知っていますが、本当に理解してください。』

例７）学者の話～「シュリー・ラーマクリシュナの福音」より

ある学者が、聖典から沢山の「放棄についての賛歌」を引用していました。シュリー・ラーマクリシュナは彼に言いました。『引用だけしていないで、言っていることを本当に理解して（実践して）ください。』

例８）楽器の話～シュリー・ラーマクリシュナの話より

タブラなどの楽器のビートは、口ではすぐ覚えてまねることができます。しかし、実際に手で叩いて演奏するのは難しい。インドでは「ドレミファソラシド」を「サレガマパダニサ」と言います。「ドレミファソ」を口で言うのは簡単ですが、ピアノの演奏は勉強をしないと出来ません。

同じように、それを口で言うのは簡単ですが、歌うためは勉強をしないと難しいです。

このように、**口で言うのは簡単ですが実践しないと結果は出ません**。大事なのは結果です。

学者は、勉強してお金を稼ぐことが目的で解脱が目的ではありません。

しかし、信者の勉強や実践の目的は「解脱・悟り・幸せ」です。

普通の人は、神様の本を沢山読んで議論をします。しかし心の中では何も理解していません。

ですからスワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、普通の信者と自分を同一視して、この賛歌の中で言っているのです。

『おお、神様（シュリー・ラーマクリシュナ）！

私はまだ（頭の知識だけで）何も理解していません。

あなたはわたしの避難所です。私を守ってください。』

またスワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、信者も学者と同じようになる可能性があると言いました。

「シュリー・ラーマクリシュナの福音」「バガヴァッド・ギーター」「ウパニシャッド」など、聖典を沢山勉強し、会話の中でそれらの知識の引用を沢山しても、実践をしないければ心の中に何も表われず、勉強の意味はなくなります。

周りの人は『あなたは沢山勉強をしていますね』とほめますが、それは信者の本当の目的ではありません。

ですからスワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、信者と自分を同一視し

『わたしたちはその状態に陥っているので、神様、どうか助けてください』

と言っているのです。

※4. me：わたし

→賛歌集では「me」ではなく「cha」と書かれてあるがどちらも間違いではない。

（chaの意味はandのような感じなので、ここでは特に意味を持たない）